

## 長野市総合計画審議会作業部会 第8回産業部会 議事録（要旨）

月日 平成 18 年 4 月 10 日（月）

時間 午後 9:30～

場所 第一委員会室

< 3 月 29 日総合計画審議会の報告（基本構想素案、基本計画の考え方） >

事務局；資料の説明

部会長；報告事項とさせていただくが、質問があればお願いしたい。

全員；特になし

< 基本計画に向けた意見交換について >

部会長；前回の続きで、今日は 2 ページの「農林業」から意見ををお願いしたい。

部会員；概ねこれで良いと思うが、「多様な担い手」は現状としては難しい。

部会員；新しく農業をやりたい人には、農協青年部などの組織を紹介することと、市民農園など実際に動ける場所を紹介することが必要。ターゲットは若者と定年後に農業にチャレンジする人の二つ。定年者は退職金があるが、若者には支援していく必要がある。行政と農協との話し合いで支援機関を作っていけばいい。

専門部会員；「担い手」には認定農業者や農業生産法人がある。法人は規制緩和され、農地の所有はできないが、市町村と農地の賃貸借契約を結べばできるようになり、妙高で 6 ha やっている法人がある。この他に高齢者や女性など、いろいろな人材を育成していく必要がある。「担い手」と「人材」を分けて考えている。

部会員；若い人は儲からないからやらない。若い人より、今農業をしている人を如何に支援するかが重要。農業の手伝いは日当 6 千円位だが、その手伝いがいない。人手が無いから農業をやめることになる。特に山手では人手の支援が必要。

専門部会員；「担い手の確保」というが、行政で確保できるのか。今は自家労働から雇用労働になっており、事業体の支援や組織作りが行政の役割。

副部会長；昔は人を雇っても林業はできたが、今は困難。林道などの基盤は良くなったが、木材の利用が無い。共有地は間伐しながらやってきたが、高齢化があり長野森林組合にお願いしてきている。売ることを考えると林業では生きていけないのが現状。また、農業では、特に中山間地で高齢化が進み、次第に農地が荒れてくる。県外に出た人が定年で帰農するなど、やりがいや収穫の喜びに価値を見出すことではないか。金だけを考えたら、農業や林業は難しい。

部会長；項目を見ると農林業は非常に難しいのが現実だが、やらなければならないのも事実で、前向きな意見もいただきたい。

部会員；今は食に対する危機感がない時代。もっと食の情報、食が大切なものだという情

報を出していく行政のやり方もある。また、次世代人材となる小中学校で農業体験をやってはどうか。体験が農業への理解を生むし、食育と絡めてできる。工業も汗水垂らすことを嫌がる風潮が学生にある。農業高校や工業高校の専門性を認知して、専門教育の場を確保していく必要がある。「担い手確保」には、確保した事業者に期間や人数に応じた補助をするなどの支援が必要。

部会長；農業問題は担い手が一番大切という認識。担い手さえいれば施策も打てるということ。では次に3ページの「工業」についてご意見をお願いしたい。

部会員；経営者が元気が出るような施策を。「長野市ものづくり大賞」を作って経営者を賞賛するようなことを盛ってもらいたい。また、学校とタイアップし、ものづくりの現場の経験を子どもに語って刺激を与えるようなことを考えて欲しい。またコーディネーターやインキュベーションマネージャーは気合いの入った人を高いお金でも連れて来ることが必要。施設や仕組みは作っても基本は人。また、企業誘致は、長野市が何を基幹産業とするのかを絞らないと誘致できない。デバイス産業など明確な産業政策で人をどんどん連れてくれば、36万の人口では足りなくなる。そうすれば商業も活性化する。

部会員；コーディネーターは、バリバリ仕事をやる人に大きな権限を持たせることが必要。また長野らしさにも通じるが、商品に付加価値を付けて消費者が買いたいものを如何に作るか、農業でも工業でも必要。

部会員；農業は担い手が問題だが、成功事例の紹介などが必要。農業に興味があっても、どこからどう入っていいのかわからない。間口を広く開放するアイデアが欲しい。今の子どもは将来サラリーマンになりたいと言う。色々な職業を体験したり、職業に対する夢を持たせることが必要。

部会員；「長野らしさ」として、長野の地形や気候を活かした産業、例えば醸造などがあると思う。農業で言えば地産地消や特産品などが重要で、儲からないからやらないではなく、儲かるようにしていかなければならない。

部会員；戸隠の竹細工はマーケティングを知っている人と、家具などの新しい売り方をしていけば需要がある。全国的に漆、和紙、金物、刀匠など伝統技術の活かし方が注目されており、技術の伝承を地道にやっていけば可能性はある。

部会員；団塊の世代の頭脳やノウハウを人材として取り込み、活用していくことが必要。企業誘致は税制面の優遇も考えないと長野市に出てくる企業はない。

部会長；税制も含めて誘致の環境整備ということではないか。では、次に、4ページの「商業」についてご意見をお願いしたい。

部会員；農業と同じで担い手の問題がある。後継者がいなくて高齢で細々と商売をする老人ホーム化した商店街になっていく。儲からないのが一番の原因。しかし、やってみようという人はいるので、起業家が出やすい環境を整備する必要がある。店が空いても、

一旦人に貸すと戻ってこない不安もある。安心して賃貸借できるようなことも必要。

部会員；中には儲かっているところもある。そういう店との違いを考えなくてはならない。

八幡屋さんはここ数年JRの車内誌に出したり商品開発や話題づくりの努力をしている。個人でも商店街全体でも、中心市街地でそういうことに取り組める仕組みをつくる必要がある。成功要因の共有化ということ。

部会員；八幡屋さんも長い間のベースがあつてのことで、急にやるのは難しい面もある。

中心市街地のハード整備は随分できてきたが、中央通りに駐車できるようにするなど、交通も重要。また、線的な商店街だけでなく、路地を入ったところなど面的な商店街にしていく必要がある。人材は大切に、新しくやりたい人を支援していく必要がある。

部会員；郊外から長野の中心市街地へ行く場合、入るにも出るにも時間がかかる。交通体系を総合的に研究してみる必要がある。

部会員；店主が店に住んで、自分の住む街を良くしようとしないと、いい街にならない。

店主までが外に出てしまってサラリーマン的な店になっている。全体的に他人依存型の商店街になっており、自分たちで何とかする努力が必要。また、行政も、商工課をもんぜんぶら座に置いたり、農政課を農協に置くなど、現場の情報に触れながら仕事をすれば、もっと色々なことができる。

部会員；商店の危機感の無さが原因だと思う。売り上げや仕入れなど、経営の数字をもっと意識してやっていく必要がある。

部会長；次に5ページの「雇用」についてお願いしたい。

部会員；高齢者や障害者の雇用について法律でも定められている。障害者は法定雇用率も定められているので、障害者の雇用は項目に入れ込んでほしい。また、65才定年制に向けて高齢者の雇用、またこれらの人たちの労働環境という部分も出てくる。

部会員；どぶろく特区などあるが、お酒を作るのは規制が強い。新しいことをやろうとするのに、特区があればやり易いのではないか。

部会員；弊害となっている部分的な所を緩和するのが特区なので、まず何を対象とするかということになる。

部会員；雇用に女性を特に入れるのはなぜか。入れる必要があるのか。

事務局；男女雇用機会均等法に基づき男女共同参画が原則であるが、女性の参画は働きたいのに働けない、正規就業が難しいなどの状況があり、敢えて女性を入れた。基本構想の議論により「女性」を明確に位置づけた経緯があり、このようにしている。

部会員；恵まれている環境にある女性はいいが、そうでない人が現実には多いので、女性の雇用の項目は必要。特に出産した女性はやめざるを得ない状況になったり、再就職も難しい。また、少子化問題と併せて女性が社会進出したときの子育ての問題があり、企業内託児所など子育て支援をする事業所への補助やサポートが重要となる。少子化、子育て支援の問題は産業政策の中でも必ず出てくる。また、事業所の問題としては、事業

所の危機管理に対する支援という問題も今後重要になる。

部会員；人材の活用という部分をもっと積極的に強く取り上げてほしい。

部会員；インターンシップは行政としてできるのか。製造業で3～4ヶ月のインターンシップをやっている例もある。また派遣会社を使って農業のインターンシップをやっている事例もあるので、参考にしてはどうか。

部会員；ジョブカフェとインターンシップを結合するといい。県のジョブカフェと競争するくらいにやってほしい。